

令和7年7月29日

滋賀県内経済情勢報告

(令和7年7月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

項 目	前回 (7年4月判断)	今回 (7年7月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

(注) 7年7月判断は、前回7年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項 目	前回 (7年4月判断)	今回 (7年7月判断)	前回 比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価が上昇しており、前年を上回っている。

ドラッグストア販売は、食料品や夏物商品の売れ行きが好調となっており、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられており、前年を下回っている。

家電大型専門店販売は、エアコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に客足が堅調であり、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 客単価は上昇しているものの、節約志向の強まりによる買い上げ点数の減少もあり、想定ほど売上は伸びていない。
(百貨店・スーパー)
- 物価高の影響もあり客単価は上昇しているが、買い上げ点数は減少。なお、消費者の価格に対する意識の高さから、お得感のあるクーポン利用が増加している。
(コンビニエンスストア)
- 食料品は引き続き好調であるほか、足下では猛暑の影響もあって夏物商品の需要も旺盛となっており、来店客数も増加傾向。
(ドラッグストア)
- 物価高により客単価は上昇しているものの、競合店との競争により来店客数が減少しており、売上は前年を下回っている。
(ホームセンター)
- 足下での急激な気温の上昇の影響もあり、エアコンの売上が好調となっている。
(家電量販店)
- 認証不正問題の影響が和らぎ、納期が短縮傾向にあり、全体として売上は堅調に推移している。
(自動車販売店)
- 国内の個人旅行を中心に客室稼働率は堅調に推移しており、足下ではアジア圏からの団体旅行などのインバウンド客も増加しつつある。
(宿泊)
- 原材料価格の上昇の都度、販売価格へ反映させており、客単価が上昇していることから、売上は増加基調となっている。
(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」や、医薬品を含む「化学」が引き続き高水準で推移していることから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造関連について、AI の普及を背景として台湾向けを中心に需要が旺盛となっており、足下ではフル生産に近い状況となっている。
(生産用機械)
- ドラッグストア向けの医薬品の受注が好調であるため、生産を増加させている。
(化学)
- 取引先企業での事故の影響などにより一時的に自動車部品の生産量が減少したものの、生産量の減少を取り戻すために足下では稼働率を上昇させている。
(輸送機械)
- 利益率を確保するため、なるべくロスが出ないよう保守的な稼働に努めており、産業機器向け部品の生産量を調整している。
(電気機械)
- 節約志向の高まりから飲料等の販売が芳しくないため、包装用フィルムの販売も低調となっている。
(プラスチック)

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は、前年を下回る水準となっているものの、有効求人倍率は、概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（4-6 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 製造現場では人手不足となっているが、立地的な問題もあり求人募集をかけても人員充足の見通しが立たないことから、生産縮小も視野に入れている。（化学）
- 開発担当などの技術者は大手にとられてしまうため、技術者の不足分については派遣社員で賄っている。（電気機械）
- 専門的技術者が不足していることから民間求人サイトを利用するなど幅広く募集を行っているものの、ミスマッチも多く採用に苦戦している。（情報通信機械）
- 商品の配送にあたり業務委託先の人員確保が難しくなっていることから、当社従業員で対応することもある。（卸売）
- 慢性的に人員不足状態は継続しており、特に専門性の高い職種については、賃金の積み増しなどによる取り合いとなっている。（百貨店・スーパー）

■ 設 備 投 資 「7 年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 4-6 月期

7 年度の設備投資は、全産業で 15.5%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で 1.2%増、非製造業で 32.0%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「7 年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 4-6 月期

7 年度の経常利益は、全産業で▲11.7%（対前年度増減率、以下同じ。）の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で▲15.4%の減益見込み、非製造業で 11.1%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、持家などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数、負債金額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を下回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 4-6 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては「上昇」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 Tel077-522-6455

財 務 省